

調査結果の分析（型枠工事業）

①作業場面の分類

ヒヤリ・ハット事例を作業場面ごとに分類し、発生件数を集計した結果は表1の通りである。

「型枠建込み中」に発生したヒヤリ・ハットが47件中16件（34.0%）と、全体の3割を超えている。以下、「資材運搬時」が13件（27.7%）、「現場移動中」が8件（17.0%）、「型枠加工中」及び「型枠解体中」が4件（8.5%）、「玉掛け・揚重作業中」が2件（4.3%）となっている。

表1

分類	件数	割合
型枠建込み中	16件	34.0%
資材運搬時	13件	27.7%
現場移動中	8件	17.0%
型枠加工中	4件	8.5%
型枠解体中	4件	8.5%
玉掛け・揚重作業中	2件	4.3%
合計	47件	100%

②事故の型

ヒヤリ・ハット事例が、仮にヒヤリ・ハットにとどまらず労働災害となった場合に、その事故の型を項目ごとに分類した。選択した項目（複数選択可）を集計した結果は表2の通りである。

事故の型のうち、「転倒」が報告のあった47事例中23件（48.9%）で最多となっている。続いて「墜落・転落」が11件（23.4%）、「飛来、落下」が8件（17.0%）となっている。

（割合は、報告のあった47事例に占める当該事故の型の件数である。）

表2

事故の型	件数	割合
転倒	23件	48.9%
墜落・転落	11件	23.4%
飛来、落下	8件	17.0%
激突	5件	10.6%
挟まれ、巻き込まれ	4件	8.5%
切れ、こすれ	4件	8.5%
激突され	1件	2.1%
分類不能	1件	2.1%
崩壊・倒壊	1件	2.1%
合計	58件	123%

※複数回答可のため割合の合計は100%にはならない。

③原因（ヒヤリ・ハット体験時の心身状態）

ヒヤリ・ハットを体験した際の原因と思われる心身状態について、項目ごとに分類した。選択した項目（複数選択可）を集計した結果は表3の通りである。

原因のうち、「不注意（見落とした、気づかなかった等）」が報告のあった47事例中38件（80.9%）で最多となっている。続いて「危ないと思っていなかった」が19件（40.4%）、「よく見えなかった」が14件（29.8%）となっている。（割合は、報告のあった47事例に占める当該原因の件数である。）

表3

原因	件数	割合
不注意（見落とした、気づかなかった等）	38件	80.9%
危ないと思っていなかった	19件	40.4%
よく見えなかった	14件	29.8%
身体のバランスを崩した	14件	29.8%
大丈夫と思い手順を省略した等	12件	25.5%
手順、急所を忘れていた	6件	12.8%
近道	4件	8.5%
身体、気持ちが疲れていた	3件	6.4%
予測違いをした	3件	6.4%
身体がついていかなかった	2件	4.3%
イライラしていた	1件	2.1%
やり違い	1件	2.1%
記憶違いをしていた	1件	2.1%
錯覚	1件	2.1%
合計	119件	253%

※複数回答可のため割合の合計は100%にはならない。